

『時代は変わる』

西脇市立西脇病院

病院長 岩井 正 秀

いまだに旧式の携帯電話を使っている。いわゆるガラケーというやつである。周りからは、まだガラケーですかと言われるが、別に不自由していないし、サイズも小ぶりで使い勝手が良い。大体あのスマートフォンの、あんなこともこんなこともできますよというドヤ顔感がどうも好きになれない。所詮は電話だろうが、と言いたくなってくる。自分にとっては、便利さはガラケーぐらいが丁度良いように思う。ラインとかも「既読」だ、なんだと面倒くさい感じがして、メールがあれば十分だろと言っては、若い人たちから顰蹙を買ったりしている。ましてやフェイスブックなどというものに至っては、もう想像もできない世界である。

私たちが研修医の時は、ポケベルが普及し始めた頃で、まだ番号やメッセージの表示もなく、外出中にベルが鳴ると近くの公衆電話を探して心当たりの詰所に電話をしたものである。さらにそれ以前の学生の頃になると、ポケベルも無く、誰かに電話をするということは、即ちその相手の「家」に電話をするということであった。男友達の時は問題がないが、これが女性に電話するとなるとかなりの緊張を強いられることになる。なにしろ、まずたいていの場合、電話に最初に出るのはその親であり、こちらとしては怪しまれないように自己紹介して、しかる後に、娘さんに取り次いでいただきたいという趣旨を上手に述べなくてはならなかったからだ。それに比べると今の若者は、一人が一つのスマートフォンなどを持っていて、そういったストレスもなく連絡が可能で、随分と便利な世の中になったものだと思う。しかし本当に便利になって、良いことばかりだろうか。

2016年のノーベル文学賞をボブ・ディランが受賞した。中学生の頃から彼の歌を聴き、多感な時期に影響を受けてきた者としては、勿論大変に喜ぶべきことだとは思いますが、一方、戸惑いのようなものを覚えたのも否定できない。受賞を拒否するのではないかと漠然と思ったりもした。私が聴き始めた頃のディランは、体制に反抗する若者たちの象徴であり、既成の強大な権威からは最も遠い所にいると感じていたからだ。

『時代は変わる』は1964年、ディランが22歳の時に作って歌った曲で、その頃の彼の代表曲の一つである。

「急いで物事を決めつけないことだ。ルーレットはまだ回っている」
「今の敗者がやがて次の勝者になるだろう。時代は変わる」「世の中の親たちよ、自分が理解できないものを批判するのはお止めなさい。もう子供たちはあなたの支配下にはないのです」

こういった歌詞がギター一本を伴奏にしてしゃがれた声で語るように、

しかし力強く歌われていく。詩人としての評価は高かったけれど、それでも、このフォークシンガーにノーベル賞などと、当時誰が想像しただろうか。しかし、今回の受賞となったのは、その歌の通り長い間に時代が変わって、ノーベル賞を与える側の意識も昔とは少し違ってきたのかもしれない。またディランも自分に対する勝手なイメージを、実は以前から否定したかったのかもしれない。そういえば最近の写真やライブの映像は、何だか若者に迎合しない頑固親父のようにも見える。受賞が発表されてから随分と経って、「ノーベル賞をいただけるのはとても栄誉なことで、ありがたく思う」とコメントしたが、「先約があるので授賞式には出席しない」とのこと。どんな先約か知らないが、この辺はさすがだ。

携帯電話と同様に、仕事の面で非常に便利になったものが電子カルテである。以前の紙カルテのときは、何かあるごとに詰所まで行って、カルテを探し、誰かが記載中であれば、急がせたり譲り合ったりが日常業務の一部であった。しかし今では、端末のPCがあれば、何処でもカルテ記載や、指示出しができる。検査結果や画像もPCの画面上で見ることが可能だ。また電子カルテの掲示板に書き込むことによって、他のスタッフと連絡を取り合ったりもしている。このように無駄な時間や労力を省くことができ、誠に便利になったと思える。だが、しかし本当に便利になって、良いことばかりだろうか。

便利になるということは、言い換えれば、それまで必要であった手間や面倒な過程を無くすることができるということである。それは一見良いことのように思われるが、実はその手間や面倒な過程もまた大事だったのではないだろうか。すなわち、そういう無駄に見えるものが、少し大げさな言い方かもしれないが、コミュニケーション能力を高めるための、あるいは自分の想いを表出し、相手に伝えるための重要な訓練の場であったのではないか、ということである。

人には、ある種の緊張や、理不尽さや、軋轢があって初めて学ぶことができるものがある。それはマニュアルやシミュレーションから得るものとは次元の異なるものだ。無論、今の医学生が勉強している医療面接なども大切であるし、最近の研修医は患者と上手に話すと感じることも多い。しかし現場では想定外のこともしばしば発生する。そのような時に求められるのは、結局のところ、各々が独自に経験し、悩みながら努力して手に入れた対応力やコミュニケーション能力ではないだろうか。

世の中は便利になった、しかし昔は不便でも良いところもあったのだと近頃思い始め、色々書かせてもらった。確かに時代は変わるけど、あなたもノーベル賞を受けるのだから、このくらいは許してくれますよね、ディラン先生。